

植物DNA分離用試薬キット

Code No. NR-501

NR-501
研究用試薬

本試薬キットは弊社製核酸自動分離装置を用いた、植物DNAの自動分離に必要な試薬をセットにしたものです。

本試薬は植物からのDNA分離で汎用される「CTAB法」の試薬に改良を加え、DNAの収量、純度並びに装置の信頼性に配慮した特殊な組成となっています。

本試薬を用いますとゲル電気泳動、制限酵素分解、塩基配列分析などに必要な純度と量のゲノムDNAが簡単に得られます。

なお、本キットにはRNaseは含まれておりません。必要の際は別途購入してください。

キットの構成

試薬名・略称 (コード)	組成(規格)	包装	本体での セット位置*	取扱上の注意
植物用蛋白変性 試薬A・試薬1 (SR-1050)	SDS その他界面 活性剤	500ml 1 びん	1 2*	
植物用蛋白変性 試薬B・試薬2 (SR-2050) 医薬用外劇物	クロロホルム	500ml 1 びん	3 1*	 有害性。毒物及び劇物取締法による医薬用外劇物に該当
植物用除蛋白 試薬・試薬3 (SR-3025)	酢酸カリウム	250ml 1 びん	3 1*	
沈澱試薬・試薬4 (PR-4050)	イソプロピルアルコール	500ml 1 びん	4	 引火性。 成分として労働安全衛生法による有害物含有
洗浄試薬・試薬5 (PR-5050)	エタノール	500ml 4 びん	5	 引火性。 成分として労働安全衛生法による有害物含有
溶解試薬・試薬6 (PR-6025)	10mM Tris-HCl (pH 7.5) 1mM EDTA (オートクレー ブ滅菌済み)	250ml 1 びん	6	
植物用細胞溶解 試薬・試薬7 (SR-7050)	Tris,NaCl EDTA,CTAB	500ml 1 びん	手作業にて 使用します。	15℃以下で沈澱を生じることが あります。

PI-480, PI-80X の場合、本体正面、扉側から見て左から順に1～6番としてセットします。

*PI-50α, PI-200, NA-2000 の場合、動作ROM Ver1.4以降はセット位置が変更されます。

1. 試料数及び各ステップでの試薬の添加量から、全試料の処理に必要な試薬の量を算出します。
2. 各試薬のセット位置を間違わないように注意しながら、装置に試薬をセットします。もし間違っ
て セットされるとDNAが分離できないだけでなく、組み合わせによっては沈殿を形成し、電
磁弁、シリンジ、配管のつまりなどの故障の原因となります。
3. 試薬に沈殿が認められたときは微生物の発生等が考えられますので、使用しないでください。
4. 試薬びんを交換した場合は、配管に生ずるエア等を除くために、必ず廃液モードで装置の
リセットを行います。（操作の詳細は取扱説明書を参照してください）

B. 試薬の消費量

試薬の消費量は処理条件（各ステップでの添加量、1回の連続運転での試料数など）により異な
りますが、標準的なプロトコールで使用されますと、本試薬キットで約600試料の処理が可能
です。

C. 使用上または取扱上の注意

1. 試薬は指定された保存状態で保存してください。
植物用細胞溶解試薬・試薬7は15℃以下で沈殿を生じることがあります。沈殿
が認められた時は温湯で溶解の後、ご使用下さい。
2. 植物用蛋白変性試薬B・試薬2は毒物及び劇物取締法による医薬用外劇物に該当
します。人体に触れないように注意し、蒸気の吸入を避けて下さい。不快感のあ
る時は医師に相談下さい。装置の運転終了後、密栓して下さい。
3. 沈殿試薬・試薬4は消防法による危険物、並びに労働安全衛生法による有害物に
該当する成分を含みます。火気に注意するとともに、吸入、皮膚への接触などに
十分注意し、誤って接触した場合などは多量の水で洗うなど適切な処置が必要で
す。
4. 洗浄試薬・試薬5は消防法による危険物に該当します。火気に注意して下さい。

D. 貯法

試薬1～7は室温で保存してください。

研究用試薬 本製品は研究用に限定して販売しています。医薬品の製造、品質管理及
び各種診断・治療に使用しないで下さい。

お問い合わせ先

倉敷紡績株式会社 環境メカトロニクス事業部 バイオメディカル部

〒572-0823 大阪府寝屋川市下木田町14-30 クラボウ先進技術センター2F

TEL: 072-820-3079 FAX: 072-820-3095

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1 野村不動産日本橋本町ビル2F

TEL: 03-3639-7077 FAX: 03-3639-6998